

又、工費資計書辭林山共（辭林職前の嫌疑）指示并、工費辭下
 十一月十日 八日、十日兩日に於て工費資計書辭林山共、工費辭下
 本職職

有る由を謝する事も回答「一状で要求を謝辞」云。

自良辭期「又、東京中山登丸の昇進云々云々、中山辭前其意の
 ハも事さ云ハ東京中山登丸の昇進云々云々、中山辭前其意の
 職の資無き事、且、其職書職林参「辭」了、昇進云々云々、
 職さ「辭」了、昇進云々云々、中山辭前其意の
 十一月八日、十日兩日に於て工費資計書辭林山共、工費辭下
 本職職

有る由を謝する事も回答「一状で要求を謝辞」云。
 有る由を謝する事も回答「一状で要求を謝辞」云。
 有る由を謝する事も回答「一状で要求を謝辞」云。

伊國法人協同會大阪支所

財團法人協同會大阪支所

の三人を代表者とし正式に檜村氏に面會、工場長更迭を嘆願し
 た、檜村氏は職工に前言を繰返し之を直接擔當者たる佐々木氏
 に取次ぐ此の日佐々木氏突然工場長に任命せられ檜村氏工場支
 配人となる。代表者檜村仙次、浦元作、佐々木氏に依りて解雇
 せらる。職工全部之を聞き退場し全く罷業となる。

十一月十一日 職工罷業 工場長佐々木氏は全く姿を工場にみ
 せず且つ檜村氏は其権限なる事を楮に會見を拒む結果幹部は交
 渉の相手無きに困窮して居る。工場は十二日より作業開始入場
 希望職工の届出を掲示する。

十一月十二日 職工依然罷業入場者無し
 東京中山登氏爭議解決の爲今明日の中に來阪の筈である。警察
 側に於ては問題が抽象的の事をのてひたすら職工を慰撫するに
 務め居るのみである。

折衝者 工場主側 佐々木三郎